

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：16101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23760592

研究課題名(和文) 人的支援を含めた集落のインスティテューショナル・プロセスデザインに関する研究

研究課題名(英文) Study on Institutional Process Design for Rural Community including Human Support

研究代表者

田口 太郎 (TAGUCHI, Taro)

徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・准教授

研究者番号：20367139

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 990,000円

研究成果の概要(和文)：中越地震被災地からの復興に向けた取り組みを行う「地域復興支援員」や、全国の過疎地域で活動する「地域おこし協力隊」「集落支援員」を対象として研究を進めた。その結果、こうした人的支援は同様の活動を任期中に続けるのではなく、地域の成熟度に応じて支援内容を変化させる必要があることがわかった。このため、こうした動き方を新任の人的支援の人材に理解を促すための人材育成プログラムを開発し実際の新任の「地域おこし協力隊」「集落支援員」を対象とした研修会で使用しその懸賞を行った。また、更に導入予定自治体を対象として「外部人材の導入に向けたチェックリスト」を作成し全国に配布した。

研究成果の概要(英文)：I researched "Chiiki Fukko Shiennin" who are working for community's revitalization at Chuetsu Earthquake disaster area, and "Chiiki Okoshi Kyoryokutai" and "Syuraku Shiennin" who are working for rural community's revitalization national wide. And I know that these support are related on community's maturity of community development.

So firstly, I produced an education program for the supporters. On is for beginners called "Chiikizukuri Coordinate game" which is to design community development stories using local resources. And I used this program in Education program for "Chiiki Okoshi Kyoryokutai" and "Shuraku Shiennin" and verified its reality. Secondly, I designed self evaluation program called "Road map and Process sheet" which can assessment their activity. And 3rdly, I published an "Check List" for local government who are considering the human support to check the community's condition to introduce human support.

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学，都市計画・建築計画

キーワード：プロセス研究 人的支援 地域おこし協力隊 集落支援員 復興支援員

1. 研究開始当初の背景

止まらぬ過疎化と集落維持困難

我が国では、過疎化の進む中山間地域に対してさまざまな振興施策を実施し、問題解決を図ってきたが、実態としては過疎化の流れに歯止めがかからない状況にある。そもそも、過疎化とは居住者が農村集落ではなく都市部を居住地として選択した結果の現象であり、この居住地選択の動機を解決しなくては過疎化を止めることは難しいと考えられる。そもそも、集落の衰退初期段階においては、離村世帯の離村動機は個々人の職業選択にまつわる理由であったが、農村地域の人口減少にともなう、学校など生活インフラの減少、居住者個人にかかる集落維持労務の負担増など社会的な理由へと変化している。今後は、集落単独での居住地維持ではなく、集落外部の支援者も含めた組織的体制で集落維持を進めていく必要がある。

中越大震災による過疎地域の被災

2004年に発生した新潟県中越大震災は、我が国で社会問題化している中山間地域の過疎集落を中心に甚大な被害を及ぼした。我が国の中山間地域の農村集落はこれまで水源涵養や食料供給をはじめとして我が国の国土保全上重要な役割を担ってきたが、今日的には極度の人口減少などから集落維持が困難となる課題に直面してきた。さらには、「平成の大合併」や「郵政民営化」による公共サービスの効率化も進み、中山間地域の集落維持はいっそう困難となりつつある。一方で、被災を契機として関わりを持ったボランティアとの継続的な交流により、ふたたび活気を取り戻している集落も多数あり、これは集落内外連携による組織的集落維持活動の一端であると申請者は仮説を持っている。

2. 研究の目的

近年、「集落支援員」や「地域おこし協力隊」など、過疎地域における地域振興の手法として「人的支援」が積極的に進められている。こうした取り組みは、全国各地の地域振興の先進地のなかで特にキーパーソンなどの「人材」の役割が大きく注目されたためと考えられる。一方で、性格や専門性、経験などの異なる個人の派遣であるため、派遣される人材に成果が大きく依存することも事実である。

こうした事実を踏まえ、各地で活動している「人的支援」者の取り組みを整理することで、人的支援の可能性と課題を示し、さらに集落の自律化プロセスにおける「人的支援」者の役割の変遷、および他関係主体を含めた支援体制の変遷をインスティテ

ューショナル・プロセスデザインとしてとりまとめることを目的とする。

3. 研究の方法

中越地域で活動する「地域復興支援員」、および全国で活動する「地域おこし協力隊」「集落支援員」を対象として研究を進め、(1)現在把握している人的支援の活動内容から体系的整理の枠組みを設定し、(2)次に特徴的な事例について、支援員および行政、集落住民へのヒアリング調査を実施し、活動成果や課題を把握する。(3)さらに支援員の課題意識の整理から人材育成プログラムを開発し、「地域サポート人ネットワーク全国協議会」主催の「地域おこし協力隊」「集落支援員」を対象とした各種研修会で実際に使用し、その有用性を検証する。(4)最後に、地域における人的支援の可能性と支援体制のプロセスとともに示し、「集落における人的支援を含めたインスティテューショナル・プロセスデザイン」として示す。

4. 研究成果

こうした人的支援の取組みは導入当初から一定の活動を行えばよいのではなく、地域の状況に合わせて活動を進める必要があることがわかった。また、こうした人的支援を導入する際に地域に対して十分な情報提供や理念の共有がなされていないと、地域からの依存状態が生まれ、結果として人的支援の導入が地域の自治力を低下させるおそれがあることがわかった。

そのため、こうした状況を人的支援を導入する自治体や受け入れ地域が認識する必要があり、また生活支援になりがちな外部人材に於いても認識を保つ必要が有ることがわかった。

こうした問題への対応として、まず「地域おこし協力隊」を始めとした外部人材を対象とした人材育成プログラムを(1)初任者向け人材育成プログラム・キット「地域おこしコーディネート・ゲーム」、(2)一定期間を経た人材向け自己評価プログラム「ロードマップとプロセスシート」を開発し、実際の研修会などで評価検証を行った。また、導入予定自



地域づくりコーディネート・ゲーム



地域づくりコーディネーター・ゲーム作業風景



ロードマップとプロセスシートによる自己評価

治体への啓蒙として、研修会の実施、および(3)「外部人材導入にあたってのチェックリスト」として導入にあたっての検討項目をあげた上で、全国の自治体へ配布した。

(1)地域おこしコーディネーター・ゲーム

地域づくりコーディネーター・ゲーム(以下、ゲームと称す)は地域づくりの導入部分の企画や活動プロセスを仮想地域を設定した上で行うもので、ゲームを通じて、地域課題を読み取り、地域づくりのプロセス型思考の育成、作業グループ内での考えやアイデアの共有、を目的としている。ゲームは、6種類のカード(集落カード/課題カード/内部人材カード/資源カード/地域の声カード/外部人材カード)および2種類のフォーマットで構成されている。カードにより地域の様々な条件が規定され、それを基にフォーマット上で課題整理、地域づくりのプロセスの記入を行う。実施対象は、支援員を始めとした地域への人的支援の担い手の初任者として開発した。また実施体制は、ゲームの目的でもある作業グループ内での情報共有を図るため、複数名の支援員による作業グループを構成し、実施するものとした。また、複数グループで同時に行うことで、その成果を共有し、グループ間での情報共有を行うことを前提として実施した。ゲームに対する評価を問うアンケートを実施した結果、90%以上の参加者から肯定的な評価を得ることができた。また

着任1年以上、1年未満、地域おこし協力隊、集落支援員それぞれの評価を比較しても大きな差は見られなかったことから、全体として十分な評価が得られたと言える。

(2)ロードマップとプロセスシート

「ロードマップ」および「プロセスシート」は、一定期間の活動をへた上での振り返りをする際に使用するもので、「プロセスシート」は支援員による個別の取り組みを振り返ることを目的とし、「ロードマップ」は任期全体を見渡したマネジメントを目的としている。具体的には 取り組みの記述および客観的評価、グループ内での取り組みの成果および課題の共有、 長期的視野に経った取り組みのマネジメント、を行うことを目的としたフォーマットである。

実施対象は概ね1年以上の活動経験を有する支援員を対象としており、6名程度のグループを構成し、筆者も含めた地域づくりの専門家が各グループについてゼミ形式で行うことを想定して開発した。

「プロセスシート」「ロードマップ」については総務省主催の「ブラッシュアップ研修会」で実施し、その評価を得た結果、否定的評価の回答はシートの作成に対する1名のみで大半の参加者から肯定的な意見が挙げられたと言える。また、「シートの作成」への評価が「意見交換と助言」よりも悪いが、シートの記入方法の説明が不十分であったためであると考えられる。

「ロードマップとプロセスシート」については、大多数向けの一斉開催は難しいことから、都道府県単位での研修会などでの利用が想定され、実際は定員30名程度の全国の「地域おこし協力隊ステップアップ研修会」や高知県、奈良県、三重県などの都道府県での研修会で利用するに至っている。

(3)外部人材の導入に向けたチェックリスト

一方で、こうした人的支援の導入には導入する人材の研修と同様に導入を検討している自治体担当職員の対応が大きく活動に影響することがわかった。また、事前の検討が不足している地域で導入後の活動に課題を抱える傾向が見られたため、「『地域おこし協力隊』を始めとした外部人材の導入に向けたチェックリスト」として18項目のチェック項目および、その解説を付したものを作成し、こうした外部人材の連携組織である「地域サポート人ネットワーク全国協議会」を通じて全国の自治体に向けて広く公開した。一方で、こうした情報提供は一時的には効果的であるといえるが、一方で行政内部の人事移動などでは引き継ぎ項目に入らないケースが多いことがわかったため、今後の効果的な普及方法には

課題が残った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

田口 太郎 : 地域サポート人材の研修プログラムの構築, 農村計画学会誌, Vol. 32, No. 3, 364~369頁, 2013年.

田口 太郎 : 地域における人的支援の人材育成プログラムの開発, 日本建築学会技術報告集, Vol. 19, No. 42, 719~724頁, 2013年.

[学会発表](計 2件)

田口 太郎, 石塚 直樹 : 地域づくりにおける人的支援の自己評価プログラムの開発, 日本建築学会大会学術講演梗概集(東海), Vol. E-2, 135~136頁, 2012年9月14日, 名古屋大学(愛知県)

田口 太郎 : 市民による主体的な復興ビジョンの策定と近隣専門家の役割, 2011年度経済地理学会徳島地域大会「地域への関わりの新たな戦略と課題」, 2-1~2-6頁, 2011年10月23日, 徳島大学(徳島県)

[図書](計 0件)

[産業財産権]

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

[その他]

人材育成プログラム

初任者向け人材育成プログラムキット「地域づくりコーディネート・ゲーム」の開発

一定期間を経た外部人材向け自己評価プログラム「ロードマップとプロセスシート」

外部人材受け入れ予定自治体向けチェックリスト「『地域おこし協力隊』を始めとした外部人材の導入に向けたチェックリスト

(<http://support-jin.jp/informations/Check-list.pdf>)

6. 研究組織

(1)研究代表者

田口 太郎 (TAGUCHI, Taro)

徳島大学・大学院リソホ・アツ・アト・サイエンス研究部・准教授

研究者番号：20367139